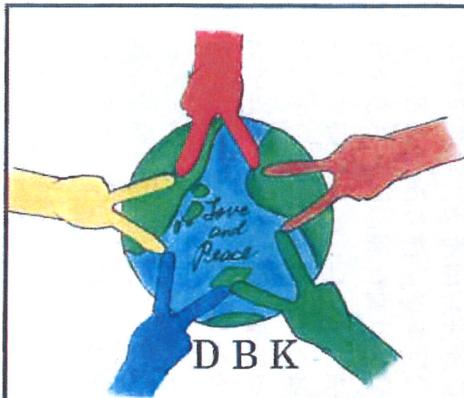




DBKだより

発展途上国援助・ドンボスコ基金

2010 年 12 月 20 日 第 6 号

発行人：アルド・チプリアニ

恩人の皆さま

クリスマスが近づいています。ドンボスコ基金の活動を支えてくださる皆様お一人ひとりに心からの感謝と神様からの祝福をお祈りします。

今年は中でも、ハイチの人々に皆様から頂きました支援を届けることができたことを感謝申し上げます。ご存じのように、コレラの流行などハイチではまだ多くの苦しみがあり、私たちの手助けを必要としています。引き続きお祈りとご支援をよろしくお願い致します。

来年の二月二日から十八日にかけて、ドン・ボスコの聖遺物が日本を巡礼します。カトリックの伝統において、聖人の聖遺物（遺骨、持ち物等）は特別な崇敬をもって扱われます。それは永遠のいのちを信じることのしるし、聖人の取り成し・保護を通して、神がいつも助けて下さることのしるしです。実に、ドン・ボスコの夢がとうと

う実現すると言えるでしょう。ドン・ボスコはしばしば事業の発展を夢で示されました。一八八六年、ドン・ボスコは大きな山と、そのふもとの首都を夢で見ます。富士山と東京です。来年の二月二日から、愛情深く共にいてくれ、父親として勇気づけてくれることを、ドン・ボスコは私たちに感じさせてくれるでしょう。

ドン・ボスコはその事業の初めから、自分の計画や夢について人々に話し、多くの人が助けの手を差し伸べました。一八八八年、この世を去る直前に協力者たちに当てた最後の手紙に次のようにあります。「恩人の皆様、この地上を後にする前に、皆様に借りている負債を返さねばなりません。それは、感謝の負債です。皆様の助け、大きな愛がなければ、私は何もできなかった、あるいはわずかなことしかできなかったでしょう。しかし、皆様の惜しみない心と神の恵みによって、私たちは多くの涙をぬぐい、多くの靈魂を救うことが

できました」。ドン・ボスコの言葉は「私」から「私たち」に変わっています。これがドン・ボスコの心、私たちの心です。皆様のおかげで、さまざまな国で働くサレジオ家族、宣教師たちは人々の涙をぬぐうことができました。こうして私たちは共に、神様のみわざを続けることができますのです。

さまざまなメディアを通して多くのニュースが伝えられ、私たちは無感覚、無関心になりがちかもしれません。クリスマスはそんな私たちを呼び覚ましてくれます。

クリスマスは、いのちを、召命、使命として、分かち合われる贈りものとして感じる季節であること思い出したいと思えます。私たちは皆、分かち合えるものを持っているのですから。互いに分かち合いまししょう。

二〇一一年も、神様の祝福が皆様の上に豊かにありますように。

管区長 チプリアニ神父

感謝の手紙

アルゼンチンの「ドン・ボスコ子ども食堂」



一九九六年に、多くの人々が仕事を求めて県の首都に集まりました。その年の五月、聖ヨハネ・ボスコ小教区は、子どもやお年寄りのための食堂を開きました。それから何年もたった今も貧困の問題は解決せず、不安定な状態は悪化しています。「ドン・ボスコ子ども食堂」は、幾度かに及ぶ国の厳

しい危機のときも、青少年が自分たちの家だと感じられる環境をつくり、貧しい人々に霊的・物的食卓を提供する場所となってきました。

人々のニーズは食事、医療、教育、宗教に及び、中でも不安定な家庭環境、特に親の暴力が子供たちに大きな影響を与えています。そこから犯罪や麻薬・アルコール中毒が広がります。そこで「ドン・ボスコ子ども食堂」は二年前から社会人の教育に力を入れ、県の文部課を通して青年と無職の大人のために職業訓練センターを始めました。DBKの皆様から頂いたご寄付は、食料品、教育とスポーツ用具、建物のメンテナンスなどのために使わせて頂きました。

皆様の寛大なお心のおかげで、大勢の青少年が、教育と霊的・物的支援、指導を受けています。扶助者聖マリアが皆様一人ひとりを豊かに祝福し、いつも見守って下さるように、私たち共同体の皆でお祈りします。

サレジオ会

フィデル山野内神父

パキスタンより



何と素晴らしい驚きでしょう！

九月一日、日本の皆さんからの一万ドルの寄付を受け取りました。洪水を逃れて私たちの町クエッタに身を寄せている、何千もの家族を助ける救援プロジェクト継続のための資金です。

この「緊急事態」に私たちは自問しました。「ドン・ボスコならどうするだろう？」

八月一七日、ウィーンのサレジオ会系開発支援団体 Jugeu Fine

（二）一つの世界の若者たち）からメッセージが入りました。パキスタンの洪水について、事態が悪化しているとの情報が入っている。洪水の被災者のため、私たちの口座に支援金を送るというのです。洪水の起きた北西地域に行く手段がないこと、しかし、政府が避難させた被災者のために支援金を使えるだろう、と私は返事しました。四、五のキャンプに避難している五万家族です。私の返事は前向きに理解され、ボン（ドイツ）の私たちの支援事務局はほかの支援団体にも連絡を回しました。私はサレジオ会総長にも連絡しました。私たちの活動は家族に支援を届けることに限られています。箱詰めと移送は、地元の大規模小売店に委託しています。飢えている人々に早急に支援を届けるため、私たちは四つのグループを組織しました。

調査と配達のため、私たちのオラトリオと学校の十八、二十歳の若者たちが、一部の生徒たちと共にボランティアを買って出しました。最も困難で危険だったのは、

私たちが最初にキャンプに入ろうとしたときでした。私たちは文字どおりさまざまな年齢の人々、粗野な男たち、嘆願する女性、泣く子どもたちに襲いかかられました。人々は自分たちの身分を証明する書類を手に振りかざしながら、私たちに向かって突進してきます。安全確保のため、私たちはトヨタのバンの窓越しにデータを集めました。



その後、私たちが各家庭に届ける食糧の量を人々が見たとき、秀

囲気は変わりました。その量は、一ヶ月はゆうにもつもので、洪水がおさまった後、村に帰る旅に携行するのに十分なものでした。一五〇〇家族を支援するという当初の目標はすでに実現し、私たちは第二段階に入るところです。目標は、被災者が自分の土地に帰還し、家と畑を取り戻すことです。すべての活動は、私たちのすばらしい、二人の若いパキスタン人サレジオ会員によって進められています。ブラザー・ノブレ・ラルとブラザー・エリック・マリクです。皆様の支援を感謝します。私たちの無事をお祈りください。

ピーター・ザゴ神父

ポリビア
「ドン・ボスコのように青少年を助けたい」

恩人、協力者の皆様 主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます。

今年、宣教司牧三十周年を迎えることができたのも、ひとえに皆さまからの寛大な励ましとご

支援があったからこそと、心から感謝いたしております。遠い国の人びとの渇きのために、一杯の水をくださった皆さまの愛のわざには神さまが豊かに報いてくださることでしょう。

ポリビアは五年前から社会主義国家となり、さまざまな変化が生じています。最近、政府とカトリック教会の間に、一触即発の問題が発生しました。

ポリビアのコチャバンバ県のチャパレ地域では、大勢のコカ栽培者がいて、コカインが密造、密輸されています。コチャバンバ大司教区のティト・ソラーリ大司教（サレジオ会）が、大司教区内のチャパレの麻薬密売に青少年が関わっていると発言しました。この発言は、コカ栽培者をはじめ、政府、大統領、与党（社会主義者）の逆鱗に触れることとなり、彼らは一斉にティト・ソラーリ大司教を非難し始め、抗議デモさえ行い、国外（イタリア）に強制送還すべきと叫ぶ事態にいたりました。この麻薬問題は日本人には想像もつかない、複雑に絡み合った社会問題

題です。

街では、子ども、大人、老人の物を乞う姿がいたるところで見られます。公務員（教師、警察官）までが、勤務終了後、自分の車のフロントに「タクシー」と書いた紙を貼って、タクシードライバーに变身して働かなければ生活が成り立たない状況です。

貧しい青少年が、麻薬密売・運び屋から抜け出せるように、また、まだ密売に手を染めてない青少年を前もって助けることのできるようにするのが急務です。これはサレジオ会員の使命でもあります。どうぞお祈りください。

今年もまた、手術後の両眼の経過を見てもうために、十二月二十三日から二〇一一年二月十七日まで一時帰国いたします。

連絡先は左記のとおりです。

電話での連絡は携帯電話

〇九〇七七一六・四四一一へ。

FAX 〇三三・三三三・三七一九〇

〒一六〇〇〇〇一一東京都新宿区

若葉一・二二二

サレジオ会管区長館

倉橋輝信 神父

春山神父の日記より

テテレ・ドリーム！

私はソロモン諸島のテテレで一つの夢を描いています。それは子どもたちのために公園を造り、遊具を設置することです。子どもたちは遊具を通してルールを学び、他の子どもたちと一緒に遊ぶことによって社会性を身につけることになると思います。ソロモンの子どもたちは一緒に遊ぶことに慣れていません。ですから、大人になっても一緒に働くのがとても難しいのです。ソロモンには遊具がなく、幼稚園にもすべりがありません。

先月、テテレにやってきたケンちゃんに、その夢を話しました。彼は賛成し、二週間後にブランコを作ってくれました。今、子どもたちはブランコに遊びに来ています。揺れているブランコから高く、遠くへと飛び降りる子どもたちもいます。雨が降っているのに、裸でブランコに乗っています。夕方になって人の姿が見えなくなるまで遊んでいます。まだ出来て数週間なのに、チェーンを掛ける部分はいくつ削れてしまいました。村人によると今この島に唯一の



ブランコだそうです。司教様も見に来てくれました。彼は「羨ましいな」と呟きました。

これからはシーソーとすべり台を作る予定です。もちろんすべて手作りです。すべり台を造ったところがある方に相談して安全で良い物ものを作りたいと思います。

クリスマス-2010

「Stay Awake! (目覚めていなさい)」これは今週(待降節・第一日曜日)、私のエネルギーになる言葉です。

私は祭壇の前に「Stay Awake!」と書いて貼りました。地元のシスターが私に、ミサ中に誰か寝ていたのかと尋ねました。「私が寝ていたんです」と私は答えました。すると、シスターは「神父さんがミサ中に寝ていたなら、この「Stay Awake!」を祭壇の上に書いた方が見えやすいのでは」と言いました。「私は寝ていたから自分では読めません。祭壇の前に書いて寝ている私を起こすように皆さんに頼みます」と話しました。

私は毎日ミサとお説教をします。信徒たちのためにお説教するのですか？自分に言い聞かせて説教をしますか？ Stay Awake! このことばをみなさんと共に生き、典礼において新しい年に入った待降節をよりよく過ごすことができますように。

羊飼いたちは Stay Awake! によってイエスの誕生を気づくことができます。寝ている人を起こしましょう。そして、この喜びを共に祝い、広めましょう。

春山ラップ神父

DBK だより 第 6 号
2010 年 12 月 20 日

発行人：アルド・チプリアニ
発行所：サレジオ管区本部
〒160-0011
東京都新宿区若葉 1-22-12
tel：03-3353-8355
fax：03-3353-7190
dbk-gia@donbosco.jp.org

ご寄付くださる方は
以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号
00100-4-560725

加入者名
発展途上国援助・ドンボスコ基金

